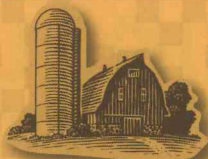


担い手通信

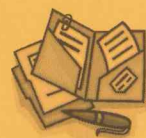


第25号
平成25年11月発行

大仙市集落営農・法人化支援センター
大仙市大曲花園町1番1号 車庫棟2階
電話：0187-73-5830
FAX：0187-73-5831

今回のラインナップ

- 「人・農地プラン」の策定状況と関係施策
- 「農の雇用事業」第3回募集案内
- パソコン農業簿記講習会 開催のお知らせ
- もみ殻ボイラーを導入してみませんか？
- 第6回大仙農業元気賞受賞者の紹介



人と農地の問題を解決するための未来設計図 「人・農地プラン」の策定状況と関係施策

平成25年10月末現在、全576集落のうち449集落を網羅する、67地区で人・農地プランが策定されております。人・農地プランの策定により、青年就農給付金などの関係施策を活用できるようになります。事業の詳細については、農林振興課または最寄りの各支所農林建設課へお問い合わせください。

○青年就農給付金（経営開始型）

原則45歳未満で独立・自営就農する方で、農業を始めてから経営が安定するまでの所得を確保するために給付金を給付します。

給付額 150万円／年（最長5年間）

○規模拡大交付金

経営所得安定対策加入者で、農地の面的集積をするために、農用地利用円滑化団体等を通じて利用権を取得した方が対象になります。

※人・農地プランを策定することは要件になっていませんが、策定することで面的集積に関する交付要件が緩和されます。

※農振農用地区域内の農用地が対象となります。

交付単価 2万円／10a



○農地集積協力金

人・農地プランの中心経営体の農地集積（貸付）に協力していただく方に、協力金を交付します。

①経営転換協力金

土地利用型農業等から経営転換する方、離農する方などが対象になります。貸付面積に応じて、下記のとおり協力金が交付されます。

・交付単価	0.5ha以下	30万／戸
	0.5ha超2.0ha以下	50万／戸
	2.0ha超	70万／戸

②分散錯圃解消協力金

中心経営体の経営耕地に隣接する農地を所有する方で、中心経営体に貸付を行う方が対象になります。

・交付単価 5,000円／10a



「農の雇用事業」第3回募集案内

全国農業会議所では、新たに就業希望者を雇用する農業法人等に対して、研修に要する経費等を助成する「農の雇用事業」の参加者を募集しております。

詳細は、秋田県農業会議、大仙市農業委員会・分室にお問い合わせください。

募集期間： 平成25年12月6日まで
支援内容： ①助成金額 年間最大120万円
②支援期間 最長2年間

パソコン農業簿記講習会 開催のお知らせ

大仙市では、秋田県農業会議との共催で、パソコン農業簿記講習会の開催を予定しています。日時や開催場所については、詳細が決まり次第お知らせいたします。

○日程 2日間、計9時間の開催日程
(初日13:30～16:30、2日目9:00～16:00を予定)

○講習内容（予定）
①ソリマチ株「農業簿記9」ソフトを活用した演習
②青色申告と税務申告に係るポイントについて

貴重な資源を有効活用！ もみ殻ボイラーを導入してみませんか？

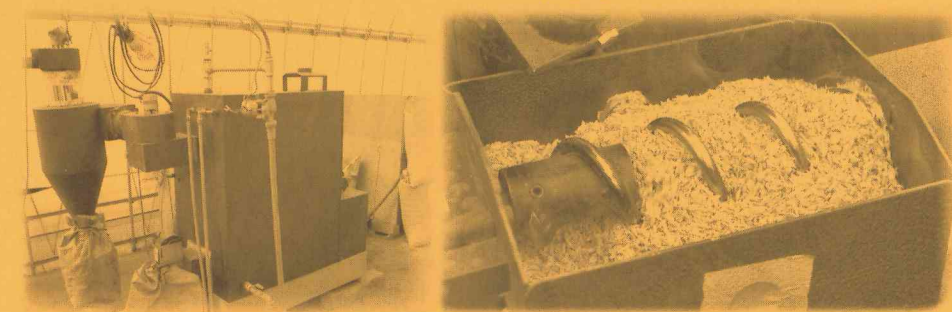
大仙市では、もみ殻を燃料として活用できる「もみ殻ボイラー」の導入に係る費用を補助し、冬期間の野菜等のハウス栽培を支援しています。

もみ殻ボイラーは、もみ殻を燃料とするため燃料費がかからず、もみ殻の処理にも困りません。また、大気中の二酸化炭素を増やさないため、経済的にも環境にも優しいものです。平成25年度は1台分の補助枠を用意しておりますので、この機会にもみ殻ボイラーの導入を検討してみたいはいかがでしょうか。

○対象者：認定農業者の認定を受けた農業法人で、もみ殻ボイラーを活用して野菜などのハウス栽培を行う法人。

○補助金額：ボイラー設置費から、消費税などを除いた金額の1/2。（※限度額あり。もみ殻容器などの付帯品は設置費に含みません。）

○問合せ：大仙市農林商工部農林振興課
0187-63-1111（内線242）



～大仙市農業の若きけん引役として期待!!～ 第6回大仙農業元気賞に3人を表彰

大仙市内に居住する若手農業者で、先進的な取り組みに挑戦したり、地域や関係団体のリーダーとして活躍したりするなど、将来の大仙市農業をけん引する方々を表彰するために制定した「大仙農業元気賞」も、今年度で6回目を迎えました。

今回の受賞者は、平成25年10月3日に開催された表彰選考委員会において、農業関係団体等から推薦された方々の中から、次の3名に決定しました。また、10月29日には、大曲エンパイヤホテルで表彰式並びに受賞祝賀会が開催されました。



こまつ みきお
小松 幹 男さん (昭和48年生まれ 大仙市太田町齊内)

大学を卒業後に、全国各地で農業や食に関係する仕事に携わったのち、平成18年から就農しました。平成22年からは経営主として、水稻や野菜の栽培、農家レストランの経営など6次産業化にも取り組んでいます。

農家レストラン「榎食堂」は平成24年1月にオープン。就農前に通った調理師学校などで学んだ技術を生かし、主に年間20～30種類の自家栽培の野菜を使用し、新鮮な素材の持ち味を素直に引き出した料理を提供しています。

また、JAアスパラガス部会太田支部の副部会長を務めるほか、修学旅行生の農作業体験を積極的に受け入れるなど、農業の魅力を地域や若い世代に伝える活動に力を入れています。

昔からの夢だった農家レストランのオープン。幹男さんは「自分にしかできないものをつくりたい」と話します。



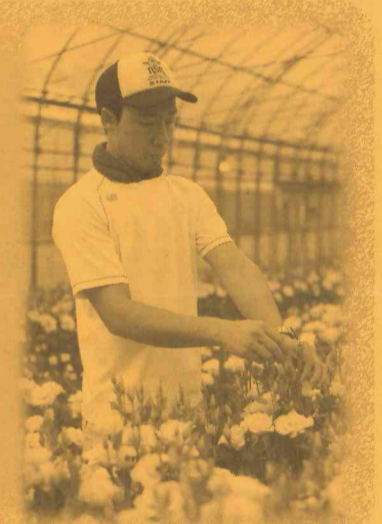
ふか や ともひろ
深谷 智 浩さん (昭和52年生まれ 大仙市大曲西根)

大学を卒業後、平成13年から就農しました。平成16年からは秋田県フロンティア農業者研修を2年間受講して花き栽培について学び、平成24年からは経営主として、主に花きの栽培に取り組んでいます。

花きは輪菊とトルコギキョウを栽培。トルコギキョウは、9月から11月の出荷に向けて、時期や気候に合った種類を選定、育成しており、約20種類もの栽培を手がけています。

JA秋田おばこ花き部会のトルコギキョウ専門部会や若花会の役員を務めており、若手の花き栽培農家のリーダーとしての活躍が期待されています。

12棟のハウスで花き栽培を行う智浩さん。「省力化、効率的な農業を実践し、高品質な花き育成を目指したい」と話します。



たむら きよあき
田村 清 明さん (昭和56年生まれ 大仙市豊川)

大学を卒業後に、畜産に関係する仕事に携わったのち、「農事組合法人 中仙さくらファーム」設立を機に地元に戻り、入社しました。

主に水稻部門を担当しており、育苗センター内で作業受託分も含む水稻苗の管理を行っています。水稻・大豆の防除作業や機械全般の整備も行っており、重要なポジションを担っています。

安全安心な農業を構築するために、JAS有機米の講習会参加やJGAP団体認証取得に中心的な役割を果たしました。また、地元農業高校生の視察時には、法人の説明者として農業の素晴らしさを伝え、次世代育成にも力を入れています。

法人経営の中心を担っている清明さん。「これからは効率的に、量より質にこだわっていきたい」と話します。



表彰式の様子



受賞者を祝福するため、当日は来賓や歴代の受賞者など多くの方々が出席しました。



▼小松幹男さん

▲深谷智浩さん

◀田村清明さん